

1. 社会の動向

2030 年問題と呼ばれる、総人口の約 1/3 を高齢者が占める社会を迎えようとしている日本において、DX(デジタルトランスフォーメーション)によるデジタル競争力の向上、生産性向上のニーズは一層の高まりを見せています。労働力人口の減少という脅威を背景に、年齢や経歴に囚われずに新たなデジタル分野のスキル習得を目指す「リスキリング」といった言葉も出現し、一人ひとりが絶えず変革することで不確実な未来に対してフレキシブルに対応することを求められています。また、ChatGPT といった生成 AI の出現やローコード・ノーコードの台頭など、これまでの、システムに多額の投資や知識を必要としていた状況から、現在は、より手軽に個人や企業の目的に則したデジタル技術の恩恵を受けられる社会へと急速に遷移してきています。

こういった急速に変化し続ける社会情勢においても、DX を実現するために必要なスタンスは至ってシンプルであり、「これまで」の仕事を如何に効率的かつ効果的に行い、「これから」の仕事に向けて資源を活用できるかです。この「これまで」と「これから」双方において、デジタル技術をどのように活用し実現するか、これこそが SCC の DX 戦略の根幹であり、その延長線に「これまでにない」仕事や価値が生まれるものだと考えます。単純なデジタル投資だけでなく、実際にデジタル技術を活用する社員のマインドや組織風土を「これから」を見据えた変革意識へアップデートしていくことで、SCC が変化していくと共に、働く社員一人ひとりも成長し変化することで幸せを実感できる会社を目指します。

SCC は引き続き、IT で高度情報化社会を支えた実績と誇りをもって DX 戦略を確実に推進し、未来に向け、社会にこれまでにない創造価値を提供できるよう努めてまいります。

株式会社エスシーシー
代表取締役社長
春日 邦彦

2. 中期 DX 戦略の推進状況

(ア) 重点施策

① プロジェクトマネジメント支援 AI システムの構築

AI の性能(精度)は順調に高まってきております。毎月取得するデータを元に実行されますが、データによって性能値が変動するため安定的にパフォーマンスを発揮できるようモデルアップデートに着手しました。概ね問題なく推進が出来ており、当初目標に向けて順調に構築を進めております。

② 人材開発支援スキームの構築

パイロット導入によって一部部門への導入を開始し、個人の行動特性と業務特性を踏まえた研修計画や技術系スキルマップ定義に着手・推進しています。また、1on1 支援機能の導入支援を実施することで、人材開発をより効果的に進められる環境を整備しています。下期以降はさらに導入部門を追加する予定であり、順調に導入対象部門の増加、スキームのアップデートを行っております。

③ 企業アライアンスによるコラボレーションビジネスの開始

上期時点でアライアンス事業に繋げる企画提案を 5 件行い、一部は既に PoC に着手しており順調に新規ビジネスモデル創出に向けて推進できています。現在もコラボレーションビジネスに関する打診がいくつか入っており、徐々に注目度を上げることで、これまで関わることのなかった業種・業態の企業様へ ICT 支援のきっかけを作ることが出来ています。

(イ) 環境整備

ABW 型オフィスへのリニューアルについて、一部のオフィスへの対応が完了しました。これからリニューアル結果を検証するとともに、順次他オフィスエリアへ適用する計画を策定・推進予定です。また、2023/8 月よりバックオフィス系 PKG 導入による電子申請化、コミュニケーションツールの全社統一化を開始しており、ペーパーレス対応、シームレスなコミュニケーション対応といった環境整備を順調に進めております。また、育成・組織風土といった面では企業アライアンス等で培った技術知識の全社員向け勉強会や、ソリューションアイデアの社内イベント開催など、新たな価値創造に向けた環境整備も活発に行われている状況です。